



子どもの居場所づくり  
地域ではくくむ

さあ、

# 子どもたちと ふれあおう!



## みんながガンマン! 歓声が響く輪ゴム銃作り

2007年度事業のガイドン

ス(遊びの広場)の一つが、08

年1月27日(日)盛岡市のつな

ぎ活動センターで行われた。学

校は、小学校の敷地内に幼稚園

中学校があり、あたかも幼・小

中の一貫教育のような環境で、

学校側は普段から郷土芸能「つなぎさんさ太鼓」

の伝承活動や御所湖祭りなど地域に根差した活動

をし、地域やPTAは学校への協力を惜しまない

土地柄だという。そのような地域の「繋小中学校

おやじの会」が主催した「輪ゴム銃を作ろう」。

割り箸と輪ゴム、そしてカッターナイフだけを使

ったシンプルな活動だが、それだけに奥は深い。

楽しく、ふれあいながら取り組んだ活動の様子を

報告する。

(取材・文/久慈 悦子)



### 自分で工夫する楽しさ

繋小中学校おやじの会(盛岡市)

「よく飛びよく命中する自分だけの銃」を目標に、まず説明を受けながら基本的な輪ゴム銃を作った。材料は割り箸と輪ゴムのみ。割り箸を転がすようにして切るといふコツを伝授された子どもたちは予想以上に手際よく1作目を作り上げた。次は自分なりの発想で自由に制作。見本に作ってあった長い銃に興味津々で早速真似て作る子、次々と部品を追加して飾り付けに凝る子など、時間を忘れて集中していた。できた子から順に試し撃ち、うまく飛ばないときはどこか歪んでいないか、何が原因かを考えて修正していた。

昼食後はいよいよの撃ち大





会。3×5 cmの発泡スチロール的は1人5発、約1 cm的は1分間の時間制限で当てた数を競った。さらに上級者向けはぶら下げられた5円玉的。見た目はよくても撃つ前に弾(輪ゴム)が暴発したり、ライフル銃のように長いと弾の装着に手間取ったりなど、意外と点が伸びず、実用性という点からはシンプルな基本の形が強いようだった。しかしその中である高学年男子の作った銃は、一見どこが銃口かわからない正方形の独創的な形なのに、安定した正確さで次々と的を捉えて目を引いた。

他の子が撃っている間も、さらに新しい形に挑戦する子、色付けする子と工夫を凝らして作り続ける姿があった。ほとんどの子が2〜3丁の輪ゴム銃を作り、中には6丁作った子もいて、しかも1つとして同じものはなかったのが感心した。お互いに独創的な銃を見せ合ったり、工夫したところを聞いたりしても楽しかったのではと感じた。

一方、銃作りから離れて割り箸を鉛筆のように尖らせることにのめり込む女の子たちの姿もあっ

た。割り方を教えながら「昔は誰もが鉛筆を自分で削ったけど、今は学校にナイフを持っていくこと自体が禁止だからなあ」とおやじが見守りながらつぶやいた。カッターの順番待ちが出るほどの人気で、道具を使いこなせるようになる喜びが伝わってきた。低学年の女の子が、削った割り箸を誇らしげにプレゼントしてくれた。他にも、自由に遊び回る子どもの姿があった。「輪ゴム銃作り」だけが目的ではないことがわかる。

本当のおやじのように背中にもたれかかって甘える男の子や、どの子が兄弟で誰が親子かわからない自然な会話にとても居心地のいいものを感じた。日頃からの地域の人の輪、子どもを見守る家族的な雰囲気。普段のコミュニケーションの延長上でみんなが楽しんでいた。日頃からの地域における子育ての環境の大切さと、自由に遊びを認める大らかさに改めて感じ入った。

